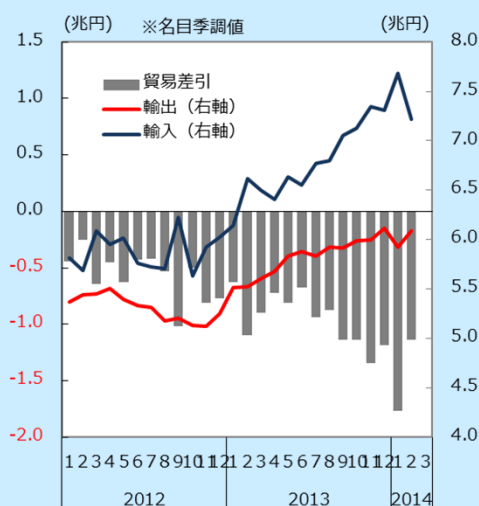
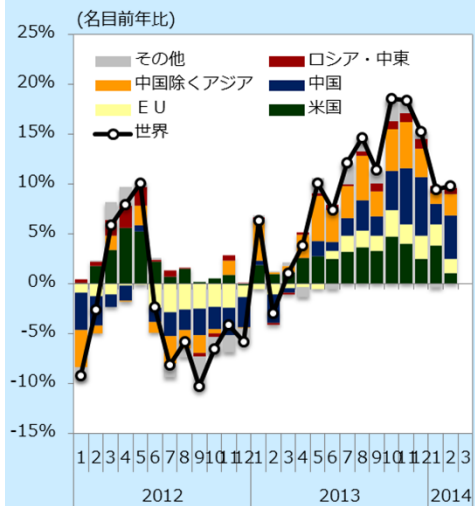


日本：貿易統計（2014年2月）

MRI Daily Economic Points
March 19, 2014

地域別輸出

輸出入と収支

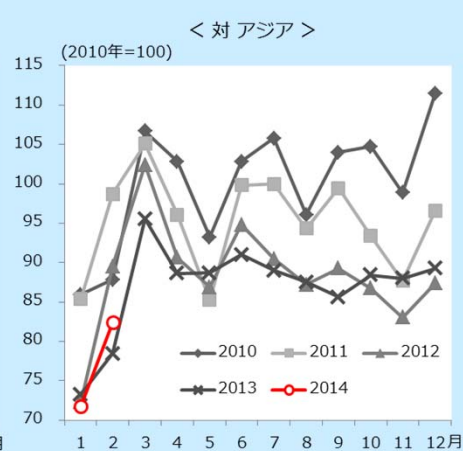
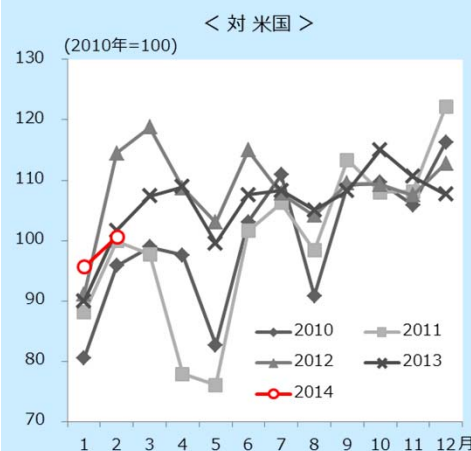


評価ポイント

2014年2月の結果

- 2月の貿易収支(季調値)は、▲1.1兆円と、1月の▲1.8兆円から赤字幅は縮小した。輸出が前年比+9.8%と12ヶ月連続で増加。輸入も同+9.0%と16ヶ月連続で増加したが、1月の同+25.1%から伸びは大幅に鈍化した。
- 輸出は、1月に続き2ヵ月連続で1桁台の伸びにとどまった。円安効果の一巡により輸出物価指数の伸びが鈍化している影響が大きく、数量指数では、1月の同▲0.2%から同+5.4%へ持ち直した。
- 輸出数量を地域別にみると、EU向け(前年比+8.2%)が5ヵ月連続の増加と持ち直しの動きをみせる一方、米国向けは1月の同+6.3%から2月は同▲1.0%と減少し、一進一退の動き。アジア向けも同+5.0%と高めの伸びをみせたものの、輸出数量水準としてはまだ低く、回復途上にある。
- 輸入は、円安効果の一巡により価格指数が前年比+15.9%から同+9.6%に鈍化したほか、数量指数も同+8.0%から同▲0.5%に減少。パソコンなどの電算機類は依然高い伸びをみせているが、原油や石炭など鉱物性燃料や食料品などの素原材料を中心に伸びが鈍化している。
- 日銀の実質輸出入によると、2月の輸出は前月比+3.8%と3ヶ月振りの増加、輸入は同▲5.9%と2ヶ月振りの減少となった。

地域別輸出数量指数



基調判断

- 輸出は先進国向けを中心に緩やかに持ち直しているが、輸入の増加により貿易収支では大幅な赤字が続いている。

今後の流れ

- 輸出の先行きは、先進国向けを中心に緩やかなペースで持ち直しを続けると予想する。ただし、新興国経済は、既往の金融引き締めや中国経済減速の影響から回復テンポは鈍いとみられ、新興国向け輸出は低調な推移が予想される。
- 貿易収支の赤字幅は、消費増税影響が剥落する4月以降、若干縮小するとみられる。ただし、海外生産比率の上昇など構造要因もあり輸出の回復テンポは鈍く、黒字転化は当面見込めない状況にある。

資料：財務省「貿易統計」